「盆地」の定義の誤りについて —— 覆水は盆（地）に返らないか？ ——

米 地 文 夫*

I. はじめに一覆水は盆（地）に返らない？—

「覆水盆に返らず」(覆水不返盆), これはもちろん「一度してしまったことは、取り返しがつかない」ことをいう成語であるが、一度間違った定義をしてしまった用語も、もはや取り返しがつかないのであろうか。その用語とは「盆地」である。

『広辞苑』(第4版, 1991, 第5版, 1998, 岩波書店)は盆地を「周囲を山地によって囲まれた平地」としている。この定義は「主要自然地域名称図」(地理調査所, 1954; 山口, 1955)の次の定義に始まるものである。

平野……海に臨む平地に対して用いるものとする。

〔例〕関東平野, 仙台平野

盆地……周囲を山地によって囲まれた平地に対して用いるものとする。

〔例〕北上盆地, 甲府盆地, 伊那盆地

以下, この定義の平野および盆地は, 本稿ではそれぞれ“平野”および“盆地”と表記する。

「主要自然地域名称図」は本来, 地理調査所(現国土地理院)の20万分の1地勢図の注記のためのものであったが, 「広く国民一般の常識として認識されうことを目的とする」ものとも付記された。

そして, 文部省(1959)『地名の呼び方と書き方』《社会科手びき書》や教科書研究センター編(1978)『地名表記の手引』・同(1994)『新地名表記の手引』などに“正しい書き方”として載り, 教科書や学校用地図帳は, この定義に従うこととなった。

これに対し私は北上盆地は北上平野とすべき¹⁾ことなどを中心に, 「主要自然地域名称図」の定義が誤りであることを, これまで再三, 指摘してきた(米地, 1984, 1989, 1991; Yonechi, 1985など)が, 反応はほとんど無く, 一向にこの定義を改める気配がない。本稿はもう一度, この問題を取り上げ, 特に今回は主に中国での盆や盆地の定義と比較し, 盆地を誤って「周囲を山地によって囲まれた平地」と定義したボーンヘッドは

取り返しがつかないかどうか, もう本来の盆地 Basin に返らないかどうか, を世に問うてみようとするものである。

II. “盆地”の盆には水は入れられない？

現在の日本では「盆」という言葉は, 8月の盂蘭盆と, 物を載せる盆との二つの意味があるが, もちろん, 問題は後者である。関係者がボンヤリしていて“盆地”をうかつにもこの「物を載せる盆」からの連想で定義してしまったことは明らかである。『広辞苑』(第4版, 1991)も「盆」の定義の②として「木・金属などで作った, 浅く平たい, 物を載せる道具」とし, 用例として「盆に載せる」と「盆地」を掲げているのも同様の類比による説明である。

だが, 「覆水盆に返らず」という言葉は, この定義で「盆」を考えるかぎり, まことに奇妙である。この成語は, こぼれた水は器には戻せないの意である。「物を載せる盆」自体が器でなく, これに水を直接入れて運ぼうとすることは, もともとできないはずであるから成語そのものが成り立たない。

「覆水盆に返らず」という成語は, 前記『広辞苑』には「周の呂尚(太公望)が読書に耽ったので, 妻が離縁を求めて去った。後に尚が斉に封ぜられると再婚を求めてきたが, 尚は水を入れた盆を傾けて水をこぼし, その水をもとのように返せばその請を受けようと言ったという故事」とある。ここから「いったん離別した夫婦の仲は元通りにはならないこと」を言うようになり, 転じて「一度してしまったことは, 取り返しがつかないこと」になった²⁾のである。

このように, 中国には水を入れる器として「盆」があり, 今でも中国で盆 pén とはいえ日本で言う鉢を指す。最も広く用いられている漢和辞典の一つ『漢語林』(新版, 1994, 大修館書店)には, 鉢の絵を掲げて漢語の「盆」を説明している。

* 岩手県立大学総合政策学部 〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子

ところが古代日本に「盆」という語が伝わると、鉢のほか「ひらて（枚手）」という平たい皿状の瓦器（素焼きの土器）もこの語で呼んだ。

江戸時代になると、平たい皿ばかりでなく、器を載せる平らな道具も盆と呼ぶようになった（須藤, 1986）。ただし、水器の意味での盆も使われており、曲亭馬琴の『椿説弓張月』には、「盆を覆すごとく」激しく雨が降るという表現がある。

明治期には、盆は器を載せる平らな道具の意味で専ら用いられるようになったことは大槻文彦(1889)『私版言海』の「盆」の項の次の説明から知られる。

- (一) ヒラカ。瓦器ノ平形ノモノ。鉢。
- (二) 今、専ラ、木製、方圓ノ扁平ナル器、縁淺シ、物ヲ載スル用トス。承盤。

約 50 年後の諸橋轍次 (1958)『漢和辞典巻八』も、

原意 はち、ほとぎ、瓦器の名。
邦 茶器、食器などを乗せる縁の浅い台

と「盆」を説明し、邦、すなわち日本独自の意味に変わってしまっていたことを明記している。

すなわち、本来の「盆」は液体を入れる容器であり、内側が窪んでいる形状であったが、近代では物を載せる平らな道具に転用されてしまったのである。英語・中国語の形で、この変化を示せば、元来は Basin・盆 pén のはずが、古代日本では皿すなわち Dish・盘子 pán zi になり、さらに江戸時代以降は器を載せる平らな道具の Tray・托盘 tuō pán を呼ぶように変わったのである。（盤は盤の簡体文字）

Tray「物を載せる盆」に合わせた日本の“盆地”の定義は、平地（盆の平らな広い面）を指しており、これを囲む山地（盆の縁）がついていることが条件となる。この“盆地”は、中国風に記せば、むしろ「盤地」とか「托盘地」なのである。

こう書くと《中国はともかく、日本の術語は日本人の生活と整合性があればよいではないか》という反論もあるだろう。しかし問題は Basin の訳語を“盆地”とし、国際性を欠く定義にしたことである。

III. Basin と“盆地”との違いは大きい

Basin は学術用語として近代日本にもたらされた。

英語の basin, ドイツ語の Becken, フランス語の bassin に当たる訳語である盆地の盆は、水器「盆」の意味であった³⁾。ここから、凹形の形態や構造の全体を指す学術用語 Basin には、流域、海盆、堆積盆、本来の意味の盆地（窪んだ地形全体）などの訳語を当てることになった。

しかし、戦前、地理関係者が座右においた地理学辞典の一つ、古今書院の『地理学小辞典』（1936）の盆地の次のような定義に、すでに問題があった。

盆地 Basin. 低平地の周囲が多少急傾斜をもつ高地で取り囲まれてゐる地形を云ひ、盆地底に堆積物が多い時は堆積盆地、盆地底の基盤岩石が諸所に露出してゐる時は侵蝕盆地と云ふ。盆地の低平部（盆地床或は盆地底）と周囲の山地との境を盆地縁と云ふ。盆地底には往々水が溜って湖水を湛へることがある。

すなわち、単に相対的に低い土地とすべき中心部を低平地と平らなものに限定した点や、周囲の高地の斜面も盆地の一部であるという認識が薄いため、（周囲が高地で囲まれているという条件下の）低平地を盆地とすると解釈される表記が問題である。その結果、盆地底（盆地床）の縁辺を盆地縁と呼んでいるのは、後の誤った定義と同類である。

さらに、第二次大戦後、さきの「主要自然地域名称図」において、「物を載せる盆」を明らかにイメージして“盆地”を定義してしまったのである。この日本的定義の“盆地”および“平野”が、本来の盆地や平野とどう異なるかを上げてみよう。

- ① 盆地とは凹型の地形全体をいうはずであるのに、その底の部分のみを指す狭い範囲になっている。
- ② 盆地の底の形を平地のみに限定している。
- ③ 平地の広がる地域は全て平野であるが、平野の一部を“盆地”としたため、“平野”は海に面したもののみ限定することになった。（樺村 (1986) もこの点を指摘している。）
- ④ 盆地を構成する四周の斜面部分は高原や丘陵などの斜面でもよいのに山地（斜面）と限定した。

このように海外の盆地や平野の意味内容とは異なる“盆地”や“平野”を日本では用いている。

文部省の『学術用語集 地理学編』（文部省, 1981）には、盆地の英訳は basin, basin の和訳は (1) 盆地

(2) 海盆, とある。しかし海外の文献においては, basin が日本の“盆地”の感覚で用いられることはほとんどなく, 主に「海盆」, 「流域」, 「盆状地質構造」などを指す語となっている。

IV. 文化論へ中国へと“盆地”は一人歩きした

特殊日本の定義の“盆地”はさらに大きく“化けて”一人歩きしてしまっている。すなわち, この定義の“盆地”を日本の特色として, 米山 (1989 など) が, 日本文化を小盆地宇宙に育まれたものとし, 平野宇宙と対置させて世の注目を集め, 樋口 (1981) は日本の景観の類型のひとつとして第一に“盆地”の景観をあげた⁴⁾。いずれも優れた着想や重要な示唆を含む論考ではあるが, 日本独特の定義“盆地”に依拠し, その“盆地”を文化論などの領域にまでキーワードとして一人歩きさせてしまったのである。

中国から学んだ漢字「盆」には呉音のボン (漢音ホン) という音読みしかなく, 訓を欠くことから, おそらく器物としての盆も中国から取り入れたものであろう。その「盆」pén から日本では「盆地」の語を作った。荒川清秀 (1997) によれば漢籍には「盆地」の用例は見つけられない⁵⁾と言う。現代中国に「盆地」péndì の語があるのは, 日本製の用語として中国に伝播した蓋然性が高い。

1989 年刊行の『辞海』(上海辞書出版社) には「盆地」について「四周高 (山地或高原) 中部低 (平原或丘陵) 的地域。如: 四川盆地, 柴達木盆地」とあって, ほぼ本来の盆地の意味になっている。

今, 手近にある中国の地理教科書 (『成人高级中学課本 地理』, 1993 年初版, 人民教育出版社) を見てみると, 地表形態を山地, 丘陵, 高原, 平原, 盆地の 5 つに分け, それぞれ絶対高度と相対高度を示しているが, 盆地のみは高度を示さず「周囲山嶺環繞, 中間一般較低平」とあって, 周囲を囲む山と, 中間の比較的低平地との両者からなるとしている。

ところが 1997 年刊行の『漢語大詞典』(漢語大詞典出版社) では, 「盆地」は「被山或高地圍繞着平地。如: 四川盆地, 柴達木盆地」とあって, 日本の誤った“盆地”定義が逆輸入? されてしまっている。

一方, 日本では日本的定義の“盆地”を, 東アジアの自然と社会との関係を説明するキイとして使うような論考も生まれている。すなわち中国の山間地に対して上田 (1995) は, 米山 (1989) の「小盆地宇宙論」の

“盆地”を大陸のいわゆる照葉樹林文化の地帯にも広く認める議論を行っている。日本的定義の“盆地”がかくのごとくに一人歩きしてしまつては, もはや「覆水」は盆に返らず」なのであろうか。

V. おわりに一覆水を盆 (地) に返すために一

盆地の本来の定義は, 前掲『辞海』に倣えば《四周の山地や高原などの高い部分からの斜面と中の低い平野や丘陵とからなる地域》ということであろう。

もし中の平野のみに限定した場合 (つまり日本的定義の“盆地”) は, Cotton (1958) が, 盆地床に当たるものを basin plain としたこと倣って, 「盆地平野」という呼称にして, 本来の盆地とは区別すべきであろう。したがって日本的な定義の“平野”は「沿海平野」となり, この「盆地平野」と合わせて「平野」となる。これによって「覆水」すなわち従来の定義の誤りとそれに伴う誤解や混乱を全て「盆に返す」ことは不可能にしても, “盆地”を本来の盆地に返すことができるのではないだろうか。

中国語については岩手県立大学総合政策学部劉文靜講師のご教示を得た。記して謝意を表する。なお, 日本における「盆地」用例の変遷過程についての詳細は既報 (米地, 1991 等) を, 海外における具体的な「盆地」用例については予定している次報 (広々とした溪谷と山々に囲まれない盆地と一地形景観用語における日本と世界のずれ— 季刊地理学投稿予定) を参照されたい。

(2001 年 7 月 9 日 受付)

注

- 1) 地形学者はしばしば「北上 (川) 平野」を用いており (中村, 1975 など), 最近での例では「北上川平野」「阿武隈川平野」の用例がある (米倉ほか編, 2001)。
- 2) もっとも, 宮城谷 (1998) は周の時代にはまだ盆はなく, 「盆という水器が普及したのはおそらく戦国時代」(紀元前 4~3 世紀) で, この故事は漢の朱買臣の話を換骨奪胎した作り話であるという。
- 3) 例えば basin には a basin of water (鉢一杯分の水) とか, basinful (鉢一杯の) などの言い回しがある。
- 4) 地理学においても, 中山 (1991) は「盆地こそ弧状列島人間生活の特色を浮き出させるもの」と, “盆地”が地理教育上きわめて重要な対象であると指摘している。

- 5) 荒川 (1997) は、ほかに「山脈」, 「半島」の語も見つけられないとしている。この山脈については、すでに米地 (1993) が箕作省吾の『坤輿図識』に始まるとの推定を行っている。

文献 (辞書など本文中に詳記したものは省略)

- 荒川清秀 (1997): 近代日中学術用語の形成と伝播
地理学用語を中心に。白帝社。
上田 信 (1995): 伝統中国 〈盆地〉〈宗族〉にみる明清時代。講談社。
教科書研究センター編 (1978): 地名表記の手引。ぎょうせい。『新地名表記の手引』は1994年刊行)
梶村大彬 (1986): 自然地理用語からみた世界の地理名称 下巻。古今書院。
須藤 護 (1986): 盆。未来。243. 1.
樋口忠彦 (1981): 日本の景観 ふるさとの原型。春秋社。
中村嘉男 (1975): 岩手県総説・自然(地形)。日本地誌。3, 345-350。二宮書店。
中山正民 (1991): 日本の盆地—弧状列島の人間生活の場として—。学図・教材研究・中学校編社会。126, 1-5。
宮城谷昌光 (1998): 太公望。(株) 文芸春秋。
文部省 (1959): 地名の呼び方と書き方《社会科手びき

- 書》。大阪教育図書。大阪。
山口恵一郎 (1955): 日本主要自然地域の名称の設定。地学雑誌。64, 11-18。
米倉伸之・貝塚爽平・野上通男・鎮西清高編 (2001): 日本の地形 1 総説。東大出版会。
米地文夫 (1984): 地形学的単位としての高原および盆地について—アナトリア・モンゴル両高原を例として—。地理予。25, 30-31。
米地文夫 (1989): 水を集めるところ—一定住の場としての盆地・流域—。地域経済研究会年報。21, 1-9。
米地文夫 (1991): 自然地域名「北上盆地」と「北上平野」—地理教育における自然地理用語と自然地域名の問題 (1)—。岩手大学教育学部研究年報。51, 105-118。
米地文夫 (1993): 地理教育用語としての「山脈」と日常語としての「山脈」—「竜脈」から「青い山脈」まで—。季刊地理学。45, 167-170。
米山俊直 (1989): 小盆地宇宙と日本文化。岩波書店。
Cotton, C.A. (1958): *Geomorphology*. Whitcombe & Tombs Ltd. Christchurch.
Yonechi, F. (1985): "Relationships between Landscapes and Inter-landform Structures". *Sci. Repts. Tohoku Univ. 7th Ser. (Geogr.)* 35, 86-94.

“Bonchi”: A Terminological Misunderstanding of “Basin” in Japan

Fumio YONECHI*

* Faculty of Polity Studies, Iwate Prefectural University, 152-52, Sugo, Takizawa, Iwate 020-0193, Japan